



# こんにちは おかや

財団法人 岡谷市国際交流協会(OIEA)  
 〒394-8510 岡谷市幸町8-1 岡谷市役所4階  
 TEL: (0266)24-3226 FAX: (0266)24-3229  
 E-mail: oiea@oiea.jp URL: [www.oiea.jp](http://www.oiea.jp)  
 2010年4月15日発行 御柱祭特集号

このニュースレターは財団法人岡谷市国際交流協会が外国籍市民の皆様へ日本の文化をお伝えしながら、様々な生活に役立つ情報を提供しようと季節ごと年4回発行しております。ご意見、お問い合わせは上記へお寄せください。

しんしゅう すわたいしゃ しちねん いちど てんか たいさい  
 信州・諏訪大社 七年に一度の天下の大祭

## 御柱祭 おんばしらさい

今年は寅年、信州・諏訪大社の神を祭る行事「御柱祭」が行われる年です。七年に一度、干支が寅と申の年に4つの神社の四隅にモミの大木16本を山から切り出して運び、建て替える盛大な祭りを行います。この祭りを「式年造宮御柱大祭」、通称「御柱祭」と呼び、この日を7年間待ちに待った諏訪地方の6市町村20万人の氏子が参加する天下の大祭です。

諏訪大社は上社と下社に分かれ、諏訪市に上社本宮、茅野市に上社前宮があり、下諏訪町に下社春宮と下社秋宮があります。

御柱祭がいつから行われているのか定かではありませんが、室町時代の記録に、平安初期の桓武天皇(781~806)の時代に寅・申の

干支に神社をつくり営んだとあるのが最初の記録で、起源はさらに遡るともわれています。

祭りでは、長さ約20m、直径1m余り、重さ10トンを超える巨木

を山から切り出し、人力のみで各神社までの道中を曳いて、最後に社殿を囲むように四隅に建てます。柱を山から里へと運び出す「山出し」が4月に、騎馬行列や花笠踊りをともなう里を練り歩いて御柱を曳く、「里曳き」が5月と2つに分かれ、上社と下社それぞれで行われます。諏訪の人々は氏子として全精力を注ぎ、16本



(4社×4本)の柱を地区ごとに担当します。秋には各地区にある神社(小宮)でも御柱祭が行われるため、諏訪地方は一年を通して祭りで盛り上がります。

## ☆日本の風物詩 ~知って楽しい日本の文化~

### 富士山 (ふじさん)

富士山は、その美しさゆえに広く世界に知られている日本一高い山です。標高は3,776メートル、日本のほぼ中心部に位置し、史上たびたび噴火してきました。1707年以降は火山活動を休止していましたが、1990年以降活発な活動が観測されており、活火山です。日本三霊山の1つで、古来信仰の対象として崇められてきました。特に江戸時代(1603~1867)には、信仰のための登山が盛んに行われています。

その偉大さと美しさはまた、日本の多くの芸術家を魅了し、優れた作品が残されています。浮世絵画家、葛飾北斎には「富嶽三十六景」という優れた作品があり、「赤富士」など世界に知られる名作もあります。



### 寿司 (すし)

日本の代表的な料理の1つ。もともとは腐敗を防ぐための魚の漬物のことでしたが、江戸時代(1603~1867)に酢を使うようになり、ご飯と一緒に食べるようになりました。しかし江戸(現在の東京)では東京湾で取れた新鮮な魚の生の切り身をのせ、手で握って寿司を作りました。これが「江戸前寿司」で現在世界中で日本の寿司と呼ばれているものです。実際には、日本中に様々な種類の寿司があり、その地域の食文化を形成しています。関西では「押し寿司」といって、手で握るのではなく木の箱の中に酢を混ぜたご飯を入れ、魚の切り身などをのせ、上から押し付けて固く締め作りします。現代では、「回転寿司」が人気となり安く沢山食べられるのが魅力で世界中に広がっています。



### お守り (おまもり)

お守りは、幸運を呼び入れ、邪悪を追い払うといわれているもので、小さな木片や紙片に神の名や祈願文、寺社名などが書き込まれています。ふつうは神社や寺で売っています。そのご利益は、交通安全、合格、商売繁盛、無病息災、安産など、様々です。お守りには、お守り袋に入れて身につけたり、車のなかにつるしたりするものと、家の中に置いたり、柱や門戸に貼り付けたりするものがあります。旅に出たり危険な仕事をしなければならぬ家族や恋人に贈って、安全や健康を祈ることも、一般に行われています。



# かみしやおんばらさい A: 上社御柱祭

日程： やまだ きとおと かわご しがつふつ か きん みつ か ど よつ か にち  
山出し【木落し・川越し】 4月2日(金)・3日(土)・4日(日)

さとび たておんばらら ごがつふつ か にち みつ か 月 しゅく よつ か か しゅく  
里曳き【建御柱】 5月2日(日)・3日(月・祝)・4日(火・祝)

## ★流れとみどころ 【 山出し 】

### ① 「心そろえてお願いだー」

4月初旬のまだ冷たい風の中、甲高い木遣り(重い材木などを運ぶときの音頭をとる掛声、歌)が響き、御柱は原山という綱置場を出発します。

「ヨイサ、ヨイサ」と声を合せ、太い綱を引く氏子たちは揃いの法被に腹掛け姿。上社の御柱の特徴であるV型の「めどでこ」とは、御柱の前後に二本の角の様な柱を取り付け、これに若い衆が乗り、音頭をとります。

### ② 難所は、山出し初日の最大の見せ場である「穴山の太曲」

御柱の通り道「御柱街道」は、茅野市穴山地区から急に道幅が狭くなります。大きく張り出した「めどでこ」の先端が道の両側の民家の軒先に触れないか、気にかかる頃にちょうど第一の難所である穴山の太曲に進みます。道は屈折しており、巨大な柱をうまく操ってスムーズに通過させるのは至難の業。木遣りの声を合図に、ゆっくりとこの難所を通過していきます。

### ③ 技と度胸の木落とし坂

2日目の難所は、茅野市宮川小学校の脇にある斜度27度の木落とし坂。「ここは木落としお願いだー」の木遣りで、「めどでこ」に大勢の若衆を乗せたまま、柱が一気に急坂を下ると沸き起こる拍手と歓声。木落としは、男たちの度胸の見せ場。大歓声の中、御柱は坂を下ります。

### ④ 川越しで洗い清める

木落とし坂を過ぎると待ち受けるのが、山出し最後の難所、宮川の「川越し」です。御柱を宮川の雪解け水で洗い清める意味があるといわれ、水温10度以下の身を切るような冷たい流れに、我先にと飛び込む姿は壮観です。「めどでこ」を左右に振りながら静かに水に入る柱、水しぶきも豪快に一気に落ちる柱、皆ずぶ濡れになりながら川を渡ります。「川越し」を終わった8本の御柱は、御柱屋敷に曳き揃えられ、5月の里曳きまで安置されます。



## ★流れとみどころ 【 里曳き 】

### ① 繰り広げられる祭り絵巻

山出しから一カ月。晴れの舞台を待っていた御柱に、いよいよ華やかな里曳きの時がやってきます。御柱屋敷を出た御柱は、大勢の氏子と見物客の中を、各社に向かってゆっくりと優雅に進みます。

### ② 祭り絵巻の御柱街道

山出しの豪快さから趣を変え、華麗で豪華な昔ながらの行列が特徴です。騎馬行列や長持ち、花笠踊り、龍神の舞などが繰り出して御柱行列を盛り上げます。長持唄などが唄われる長持行列も伝統的な姿を披露してくれます。

### ③ いよいよフィナーレ、大木が神になる建御柱

御柱を各神社の境内に建てることを建御柱といいます。本宮・前宮に曳きつけられた御柱は「めどでこ」を外し、柱の先端を三角錐状に切り落とす「冠落し」と呼ばれるものを行って、御神木としての威儀を正します。



冠落しが終わった御柱にワイヤーやロープを付け、掛け声に合わせて御柱はゆっくりと立ち上がり、やがて直立。先端に乗る氏子の手によって長さ1.5mの大きな「おんべ」(棒の先に房の付いたもので、神が宿るといわれている)が打ち付けられると奥山のモミの大木は神となるのです。

# しもしやおんぼらさい B: 下社御柱祭

日程： やまだ きおと しがつこの か きん とお か ど じゅういちにち にち  
山出し【木落し】 4月9日(金)・10日(土)・11日(日)

さとび たておんぼらら ごがつようか ど このか にち とおか げつ  
里曳き【建御柱】 5月8日(土)・9日(日)・10日(月)

## ★流れとみどころ 【 山出し 】

### ① 「里へくだりて 神となる」

「奥山の太木 里へくだりて神となるヨーイサ」と響き渡る木遣りを合図に下諏訪町 東俣川(木落とし坂までの道に沿って流れている)の溪谷沿いの下社御柱の曳き出し地点である、山腹の「棚木場」で一年間ひっそりと眠っていた御柱が目を見まし、ゆっくりと進み始めます。4月とはいえまだ寒い風の中、初日、2日目と順に目を覚ました御柱は、いよいよあの坂へと向かっていきます。

### ② 豪快、「木落とし坂」

木落とし前の難所、萩倉の大曲を抜けると急に眼前が開けます。そこが世に名高い木落とし坂。最大斜度35度、距離100m。御柱が姿を見せると、大観衆から一斉にどよめきがわき起こります。上から覗き込むと部分的には垂直に近い急こう配にみえるほどです。今か今かと待つ観衆をじらす氏子たち。御柱に跨った命知らずの若衆が、緊張の面持ちでその瞬間を待ちます。

### ③ 「注連掛」で里曳きを待つ

龍か大蛇の化身かとも思われるように激しく、吼え、転がりながら坂を落ちた御柱はふたたび穏やかな表情に戻り、さらに1km程の道のりを「注連掛」といって山出しの曳き付け地点まで曳かれていきます。そして5月の里曳きまで静かな時を過ごすのです。



## ★流れとみどころ 【 里曳き 】

### ① 御柱祭のフィナーレを飾る下社里曳き

野山の緑が一段と鮮やかになる5月。いよいよ御柱祭の最後を飾る下社の里曳きが始まり、「注連掛」に眠っていた8本の御柱が出発します。また、諏訪大社下社の秋宮から春宮へ御柱行列が市内を練り歩きます。国道142号から旧中山道へ入った御柱は、短いながらも急な坂を下って春宮境内へ曳きつけられ、春宮一の柱はその日のうちに建てられます。秋宮の4本の柱は春宮境内を経て、室町時代建立の「下馬橋」の前で初日の曳行を終えます。

### ② 豪華な道中絵巻

下社の里曳きは山出しの豪快さとは対照的に華やかな雰囲気にも包まれます。騎馬行列、長持、花笠踊りなどで華やかな行列が春を迎えた町を彩ります。中でも下諏訪町 東山田地区の長持は、伝統あるもので江戸時代の様子をよく伝えています。春宮から秋宮までは市街地が曳行のコースとなるため、大勢の見物客で御柱の最後を飾るにふさわしい賑わいを見せます。

### ③ 二日目は秋宮まで曳行

二日目の出発地である「下馬橋」は、殿様も駕籠や馬から下りたという神社の区域。その橋を出た秋宮の御柱は下諏訪の町中をゆっくりと進み、長い坂(大社通り)を登って行きます。4本の御柱は境内でひと晩を過ごし、御柱祭の最終日、いよいよ秋宮の建御柱です。

### ④ 建御柱を豪快に演出

上社同様、先端を三角錐に整える「冠落し」の儀を行った後、何本ものロープが取り付けられ、車地と呼ばれる道具を氏子が力を合わせて巻き上げると、御柱は徐々に立ち上がって行きます。てっぺんで意気揚々とおんべを振る天端(天にのぼるはしご)の乗りは、御柱を豪快に演出します。わき起こる拍手と喝采の中で神となる巨木。山出しから二カ月にわたって繰り広げられた柱の曳き建ては幕を閉じます。



## ☆アクセス

### A: 諏訪大社上社本宮・前宮までのアクセス

電車でお越しの方: JR中央本線茅野駅よりタクシーで約10分

バスでお越しの方: 中央高速バス新宿～諏訪・岡谷線中央道茅野停留所よりタクシーで約10分

自動車でお越しの方: 中央自動車道諏訪インターチェンジより車で約10分

### B: 諏訪大社下社春宮・秋宮までのアクセス

電車でお越しの方: JR中央本線下諏訪駅より徒歩で約10分

バスでお越しの方: 中央高速バス新宿～諏訪・岡谷線下諏訪停留所より徒歩で約7分

自動車でお越しの方: 長野自動車道岡谷インターチェンジより車で約15分



# INFORMATION

## ☆(財)岡谷市国際交流協会・岡谷市役所・各支所窓口業務の終了時間の変更について

4月1日から、市役所・各支所の窓口業務の終了時間が変更となります。

■ 変更前 午前8時30分～午後5時30分 → ■ 変更後 午前8時30分～午後5時15分

午後5時15分以降の税金・水道料などの支払いや、戸籍関係の各種届出などについては、これまでどおり、ラオカヤ内の「岡谷駅前出張所」および「市役所当直」で行うことができます。

岡谷駅前出張所では、戸籍謄本や住民票の写し、印鑑登録証明書の発行などもできますので、ご利用ください。

岡谷駅前出張所の開所時間 午前10時～午後7時 (毎月第3火曜日と年末年始(12/29～1/3)は休業)

## ☆岡谷市税務課より

①4月1日より、個人情報保護の観点から、各種税証明書などの交付または閲覧の申請の際、窓口において、外国人登録証明書の提示によって、本人確認をさせていただきます。

### ②軽自動車税とは

4月1日現在で軽自動車、原動機付自転車などを所有している人にかかる税金です。

4月2日以降に名義を変えたり、廃車にした場合、県税の自動車税のようにその年の税金が還付になることはありません。なお、4月2日以降に軽自動車などを取得した場合は、その年の軽自動車税はかかりません。

### ③軽自動車税減免制度について

身体や精神に一定の障害のある人、またはその人と生計をともにしている人が所有する軽自動車には、軽自動車税を減免する制度があります。

ただし、障害の程度によって対象にならない場合もあります。申請は納付発送後より納期限の1週間前までです。

## ☆岡谷市環境課より

4月から家庭ごみ等有料化がスタートしています。

新しいごみ袋や旧袋に貼って使用可能な証紙シール、または分別など… 不明な点がありましたらお気軽に環境課0266-22-7040 または岡谷市国際交流協会0266-24-3226 までお問合せください。